

政務活動費成果報告書

令和6年2月20日

犬山市議会
議長 柴田 浩行 様

議員名 小川 清美

下記のとおり、先進地視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和6年2月14日(水)～令和6年2月15日(木) (1泊2日)
(2) 場 所	香川県高松市及び愛媛県四国中央市
(3) 形 態	会派(創犬会)先進地視察研修
(4) 内 容	<p>○高松市 (於;高松市役所) 内容;スマートシティーについて</p> <p>(1) 概況</p> <ul style="list-style-type: none">・四国の玄関口として発展・丸亀商店街7ブロックで構成されていて、現在5ブロック目造成中 <p>(2) レクチャー</p> <ul style="list-style-type: none">・高松市のスマートシティーのスタートは、平成28年に開催されたG7情報通信サミット・推進する中で、スーパーシティ構想については、国で不採択・スマートシティー高松推進プランとは 多様な主体の出会いと共同…産学等の連携 市民ニーズに応じた行政サービスの提供…自治体DX 持続可能で魅力的なまちづくり…民間を交えたデジタル活用 誰もが恩恵を享受できる環境整備…デジタルデバイス対策 これらを実現するための中枢としてIoT共通プラットフォームを構築 ※市保有のオープンデータの加工やデジタル化・防災分野での活用 防災ダッシュボードとして、国・県の情報の他、市の独自情報(水位計や潮位計のデータ等)を合わせて表示可能とし、一元的な管理を可能としている。



・観光面での活用

レンタサイクルの位置情報の蓄積や可視化を目指したが、新型コロナの影響など、難しい面があった。なんとなく、観光客の行動が見えてきたところ。

・今後

スマート農業や交通事故抑制に向けての活用を引き続き推進

○四国中央市（於；四国中央市役所）

内容；デマンドタクシーについて

(1) 概況

- ・四国4県に接する位置にあり、まさに四国の中央に位置する。
- ・日本一の紙のまち（愛知県春日井市は4位）
- ・紙づくりを中心とした産業の町であるが高齢者率は約33%
- ・人口規模としては当市と同等程度の自治体（約82,000人）



(2) レクチャー

- ・利用にあたっては登録が必要で、予約センターへ電話予約
現在の登録者数；6,397人
- ・搭乗形態は乗り合いだが、ドア・ツー・ドア方式で、市民の利便性を高めている。
- ・4エリア内を運行だが、エリアを跨る移動はできない。乗換えの場合は乗車ごとに利用料金がかかる。
- ・利用料金は、運行当初（H22年）から変わらず、中学生以上400円
子どもや障害者は、200円、未就学児は無料
- ・運行に係る経費5000万円から5500万円で、このうち料金収入は概ね500～600万円。相当な市の支出を伴う。

・予約センター視察

オペレーターが4名（+チーフ1人）で、電話対応されていたが、かなり手間がかかるようであった。この方々の人件費を考えると、導入の可否について、一考せざるを得ないと痛感

※通常は、午前中4人、午後は3人のオペレーター

※予約センターの設置運営に係る経費は全て市負担



(5) 成果・提言

【高松市スマートシティ】

- デジタルデバインド対応として、市が積極的に関わっていることは、参照すべきと考える。当市の場合は、専門的部署を創設するまでは無いと思うが、例えば地域協働課（町内会、コミュニティ）や高齢者支援課（老人クラブ）などが教室を開催するなど、更に取り組む必要がある。
- 郵送料の値上げ対策として、デジタル申請を増やすために、徐々に返送料金は申請者負担に切り替えていくべき。
- 当市のデジタル町内会検討については、実証実験を経て一旦中止という結論に達したが、将来のスマートシティを目指すうえで、引き続き何らかの方策を導くための協議をすべき

【四国中央市デマンドタクシー】

- ドア・ツー・ドア型のデマンドタクシーを当市で実施することは、経費や費用対効果の面から非常に難しい、導入するには、十分な検討と調整が必要。まずは、市内各種イベント等への利便性を高めるために、コミュニティバスの土日運行に向け検討を進めるべきと考える。